

## 博士後期課程学位授与へのプロセス（数学専攻）

### （１）博士後期課程１年次

４つの専門分野「代数学」、「幾何学」、「解析学」、「確率・統計」のうち、所属している研究室に応じて選択必修科目「代数学研究１」、「幾何学研究１」、「解析学研究１」、「確率・統計研究１」（各 10 単位）のいずれか 1 科目を履修する。指導教員と密接に議論し、文献研究を通して先行研究について調査することによって、専門分野における自らの研究内容の位置づけや意義を理解したうえで最終目標を設定する。さらに博士後期課程における研究計画を作成し、その計画に沿って自立的な研究活動を開始する。また、専門分野における独創的な研究を実施するための知識や方法論を修得する。

### （２）博士後期課程２年次

１年次に引き続き選択必修科目「代数学研究２」、「幾何学研究２」、「解析学研究２」、「確率・統計研究２」（各 10 単位）のいずれか 1 科目を履修する。研究計画に沿って自立的な研究活動を継続する。国内外での学会・シンポジウム等で研究成果を発表することによって、他の研究者と積極的に意見交換をする。さらに、指導教員との議論を通して自らの問題設定能力・問題解決能力・研究推進能力を高めていく。また、学術専門誌への論文投稿を通じて、専門分野における自らの研究の位置づけや学術的評価を客観的に把握する。

### （３）博士後期課程３年次

２年次に引き続き選択必修科目「代数学研究３」、「幾何学研究３」、「解析学研究３」、「確率・統計研究３」（各 10 単位）のいずれか 1 科目を履修する。国内外での学会・シンポジウム等での研究成果の発表を通じて他の研究者と積極的に意見交換をするとともに、指導教員との密接な議論を通して自らの問題設定能力・問題解決能力・研究推進能力をさらに高めていき、専門分野における先端的な研究を自立して行うための手法や方法論を確立する。そして、研究成果を総括的にまとめ上げて博士論文を作成する。

### （４）修了要件

修了要件は、上記の選択必修科目 30 単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。大学院生は、まず、数学専攻で開催される公聴会で博士論文の内容を発表し、専攻内での判定会議で認められた場合に限り、博士論文の審査を請求することが出来る。その後、理学研究科委員会での承認を経て学長から審査開始の許可を受けてから、学位論文審査が開始される。審査は指導教員を含め 5 名以上の審査員によってなされる。学位論文の学術的内容もさることながら、選択必修科目で修得した論理性や分析能力、問題設定能力、問題解決能力、研究推進能力や技術の修得の度合いの評価も考慮されて最終試験の合否が判断される。最後に主査が理学研究科委員会において審査報告をし、承認されれば博士の学位が授与される。